

月山の「コクワ」(山形県・西川町)

― 多雪地帯に局在するデワノマタタビ ―

「光香」、「峰香」など、サルナシ(コクワ)の品種育成の草分けで、その道ひとすじに歩まれている佐藤一男さんを訪ねて、山形県西川町に向かいました。突然の訪問にもかかわらず、月山山麓に自生するコクワからの優良系統の選抜の経緯や地域への普及について、熱く語ってくださいました。

中井猛之進博士は、大正時代の初め、全国的に分布するサルナシとは区別し、羽前月山、湯殿山で採取したものを「デワノマタタビ(A. japonica)」と命名しました。近年の私たちの調査研究で明らかとなった、全国分布する四倍体とは染色体数が異なる、月山以南、長野県北部までの日本海側の多雪地帯に局在する六倍体の個体群がこれにあたるものとみられます。

三月初めの西川町はまだまだ深い雪の中でした。併せて立ち寄った新庄市にある山形県の研究施設では、はじめて「かんじき」を体験しました。

二〇〇五年三月八日

